

学校評価特集号

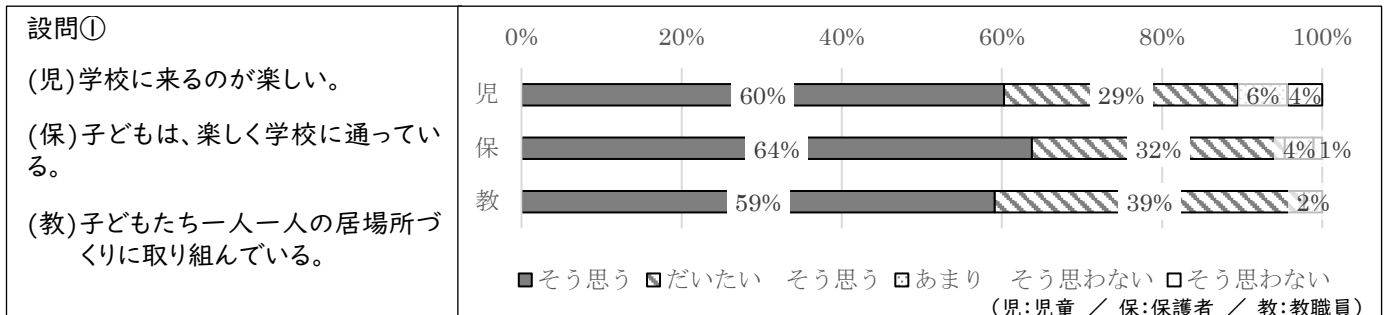
令和8年10月1日

京都市立岩倉南小学校

校長 谷村 茂生

平素より、本校の教育活動に多大なご理解・ご協力をいただき、ありがとうございます。

6月末から7月にかけて行いましたみなみアンケートにご協力いただきありがとうございました。この「学校評価特集号」では、「みなみアンケート」の結果とそれをもとにした振り返りをお伝えします。よいところも課題も含めて、保護者や地域の皆様と共有することで、よりよい学校づくりにつなげていきたいと考えています。どうぞ、よろしくお願いいたします。



アンケートでは、はじめに「学校に来るのが楽しい」かどうかを尋ねています。

児童、保護者のどちらの結果からも、「学校が楽しい」と感じている子どもが多いということがわかります。子どもが毎日楽しく通え、そして満足して下校できるように日々取組を進めています。一定、その効果が表れていることは大変うれしく思います。

しかし、昨年度の結果と比べると「楽しくない」と感じている児童が増えています。学校生活の中での友人関係や学習への不安、個々の悩みなど、子どもたちを取り巻く状況は様々です。今回の結果を真摯に受け止め、児童一人一人の思いや声に耳を傾けながら、だれもが安心して過ごせる学校づくりを目指していきます。

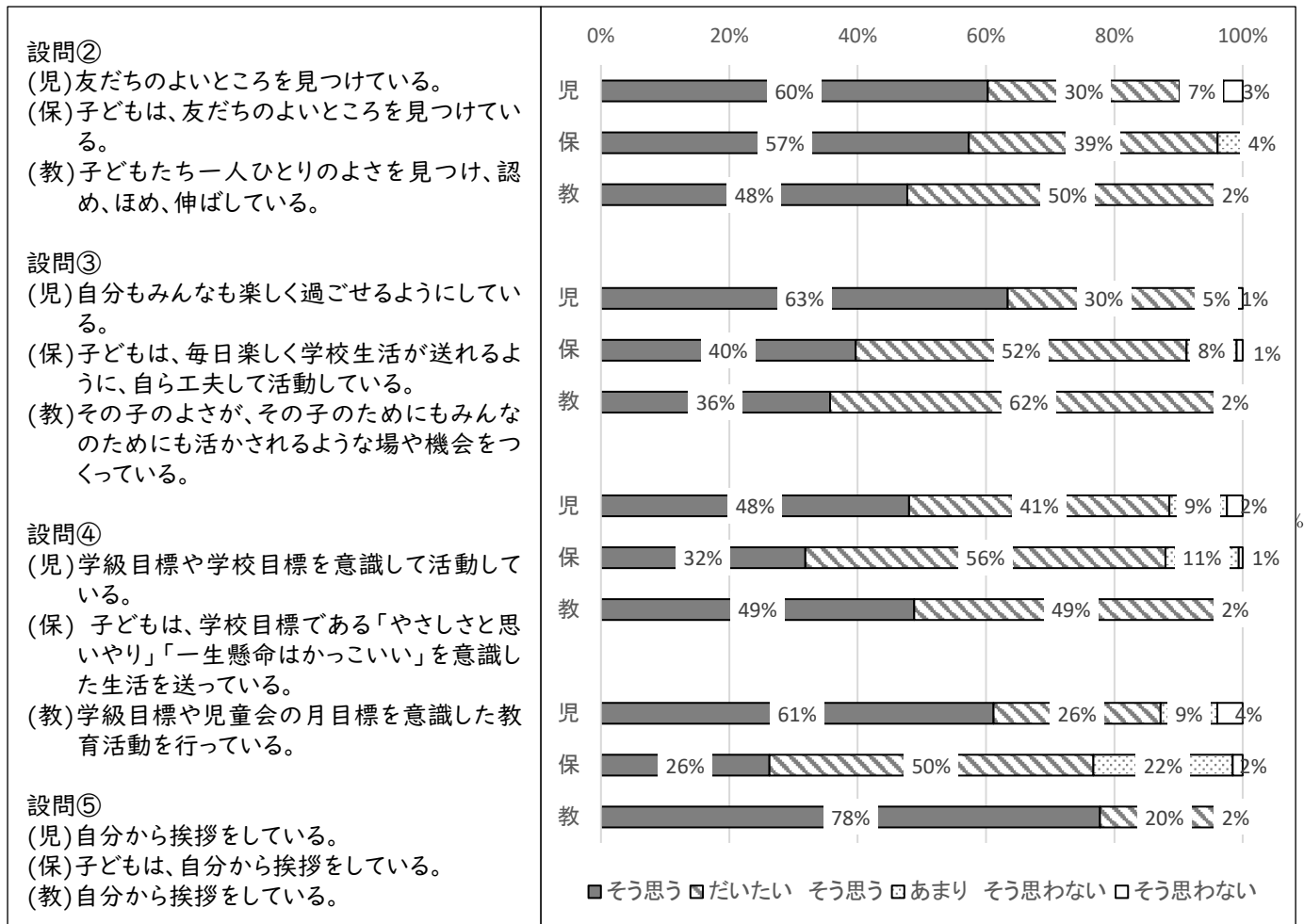
今年度の記述欄には、児童が「毎日楽しく学校に通えている」という声や、教職員の丁寧な関わりへの感謝の言葉が数多く寄せられました。特に、「子どものよさや頑張りを認めてくれる」「安心して学校へ送り出せる」「子どもが学校であったことを楽しそうに話してくれる」といった意見が多く見られました。また、一人一人に寄り添った学級づくりや、主体性を大切にした指導が、児童の自信や意欲の向上につながっているという評価もいただきました。

縦割り活動やいわみな祭り、町探検、生き物とのふれあいなど、体験的な学びへの評価も多く寄せられました。異学年との関わりや地域とのつながりの中で、思いやりや協力する力、社会性などが育まれていることを実感していただいています。また、授業づくりや自主学習の工夫によって、児童が意欲的に学ぶ姿や、自ら考え行動する力の育ちを感じているという声もありました。「学校目標である『やさしさと思いやり』『一生懸命はかっこいい』が児童の姿に表れている」というご意見も複数いただきました。

一方で、よりよい学校づくりに向けた建設的なご意見もいただきました。学習については、「なぜ学ぶのか」「学んだことがどのように役立つのか」を児童が実感できる授業への期待や、学習方法・宿題の意図を分かりやすく伝えてほしいという声がありました。また、学校行事の運営、安全な登下校、災害時の連絡体制、地域との連携などについても貴重な提案をいただいています。児童が安心して学び、主体的に成長できる環境づくりのために、今後の教育活動に生かしていきたいと考えています。

自由記述全体を通して感じられたのは、保護者の皆様が、児童の成長を学校とともに支えていきたいと願ってくださっていることです。また、「先生方も無理をしないでほしい」「保護者として協力できることがあれば力になりたい」といった温かな言葉も多く寄せられました。いただいた励ましとご意見を大切に受け止め、児童一人一人が「学校は楽しい」「自分には居場所がある」と感じられる学校を目指して、教職員一同取り組んでいきたいと思ひます。

「思いやり、たがいの良さを認め合う子」の育成に関して

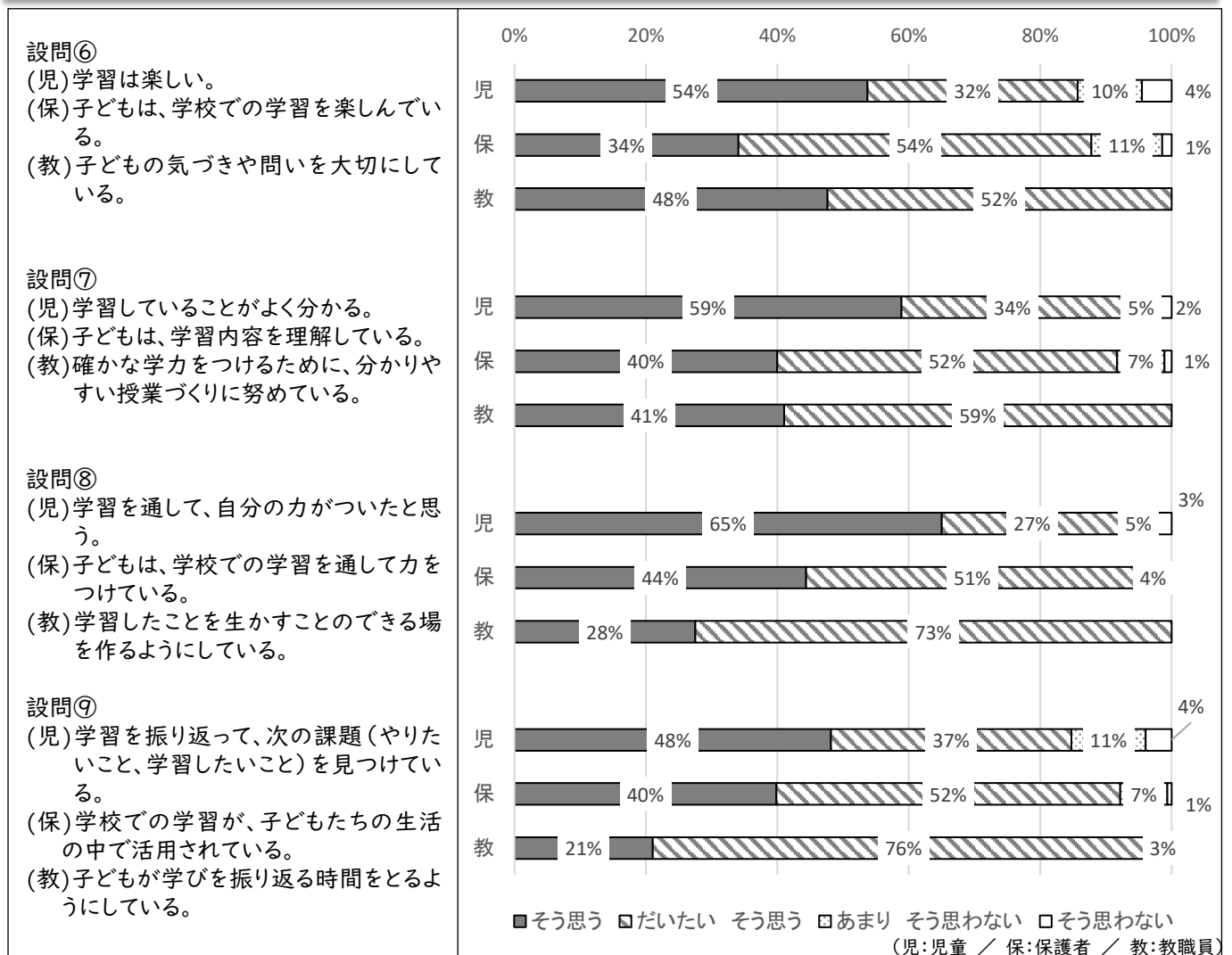


設問②「友だちのよいところを見つけている」、設問③「自分もみんなも楽しく過ごせるようにしている」の項目では、児童・保護者ともに高い肯定的評価が見られました。自由記述においても、縦割り活動や日々の学級活動を通して、子どもたちが互いのよさを認め合いながら成長していることや、思いやりのある関わりが育まれていることを評価する声が多く寄せられました。今年度は、たてわり活動に力を入れ、1学期の終わりには、「みんなのすてきを見つけよう」という目標で「いわみな夏祭り」を開催しました。同学年だけでなく、他学年ともかかわりを深めることで、本校が大切にしている「やさしさと思いやり」が、子どもたちの姿として表れていることがうかがえました。

項目④「学級目標や学校目標を意識して活動している。」については、多くの児童が意識して生活している一方で、児童と保護者の評価にやや差が見られました。保護者からは、「目標はとてもよいが、子どもにとっては少し抽象的ではないか」という意見もありました。目標の言葉だけを理解するのではなく、日常生活の中でどのような行動につながるのかを、子どもたち自身が実感できるようにすることが今後の課題であると考えています。また目標を立てるだけで終わらず、活動前にはその目標を達成できる取組になっているのか、活動後には、目標をもとに振り返りを行い、次の活動に指針とするなど、常に意識していくことも大切なのではないかと考えました。

設問⑤「あいさつ」については、肯定的評価が多いものの、他の項目と比べるとやや低い結果となりました。自分から進んであいさつすることは、よりよい人間関係づくりの第一歩です。保護者や地域の皆様と連携しながら、相手を大切に思う気持ちや人とつながる喜びを感じられる取組を進めていきたいと考えています。

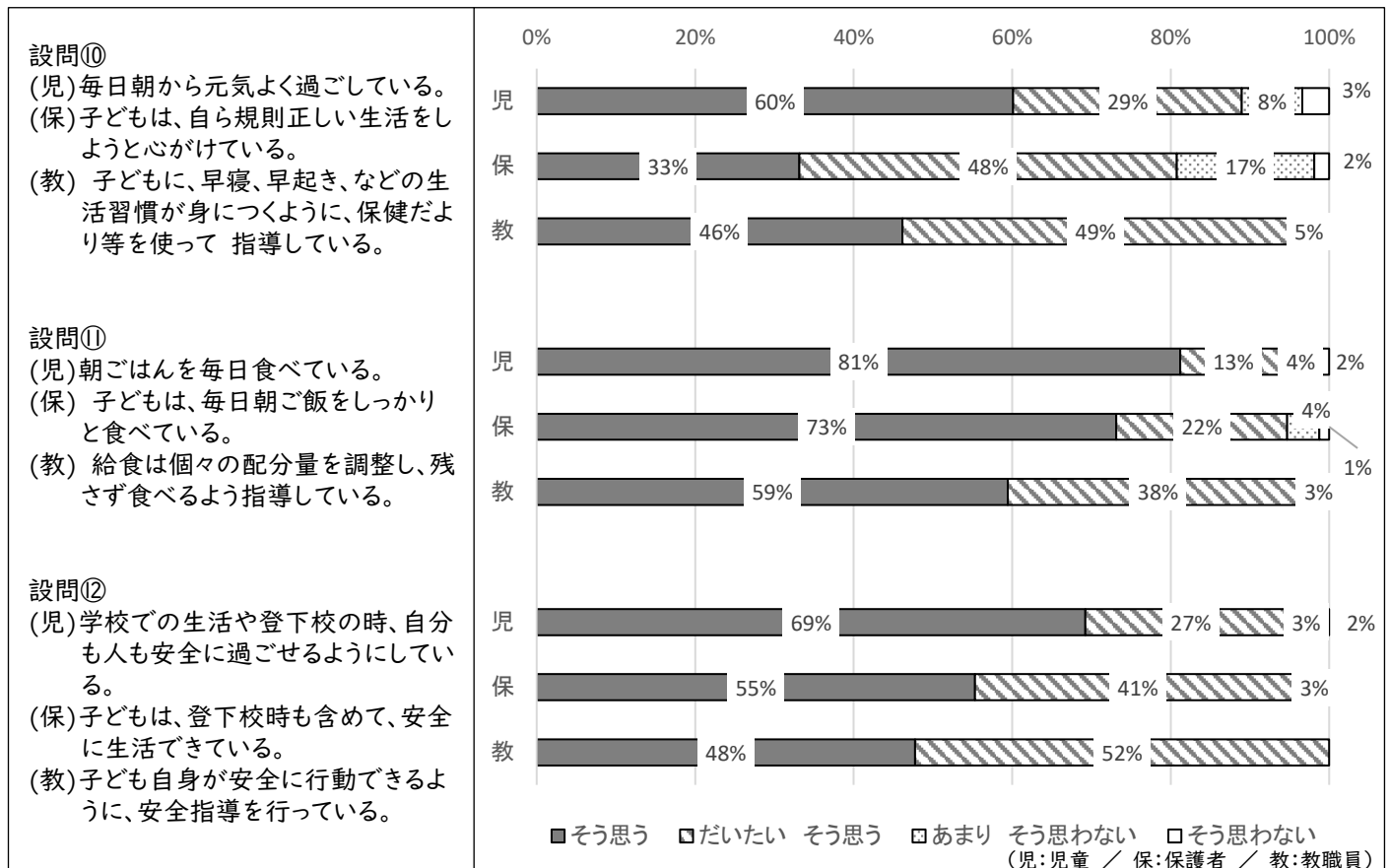
「自分で考え、行動する子」の育成に関して



学習に関する設問（⑥～⑨）では、多くの児童が「学習は楽しい」「学習していることがよく分かる」「学習を通して力がついた」と肯定的に回答しており、本校の学習活動が子どもたちの意欲や成長につながっていることが分かりました。特に、「力がついた」と感じている児童が多いことから、日々の授業や学習活動を通して、知識や技能だけでなく、考える力や表現する力なども着実に身に付いていると考えられます。また、保護者からも、子どもが学校での学習を楽しみにしていることや、自ら考えて行動する力が育っていること、学習への意欲が高まっていることを評価する声が寄せられました。教職員も、子どもの気づきや問いを大切にした授業づくりや、分かりやすい授業づくりに努めており、その取組が子どもたちの学びへの前向きな姿勢につながっていると考えています。

一方で、「学習を振り返り、次の課題を見つけている」の項目は、他の学習に関する項目と比べてやや低い結果となりました。子どもたちは学習を楽しみ、内容も理解し、自分の成長も実感していますが、その学びを振り返り、「次はこんなことに挑戦したい」「もっと詳しく知りたい」と主体的に次の学びへつなげる段階には課題が見られます。変化の大きいこれからの社会を生きる子どもたちには、教わったことを理解するだけでなく、自ら課題を見つけ、学び続ける力が求められます。そのため、今後は授業の終わりの振り返りの時間を充実させ、自分の学びや成長を見つめ直す活動を積極的に取り入れていきます。また、学習したことを生活や社会と関連付けたり、自分なりの問いや課題をもったりする機会を増やすことで、主体的に学び続ける力の育成を目指していきます。これからも、子どもたち一人一人が「分かった」「できた」という達成感を味わうとともに、その学びを次につなげながら成長していけるよう、授業改善に取り組んでいきたいと思ひます。

「命を大切にし、心と体をきたえる子」の育成に関して



健康・安全に関する項目では、「毎日朝から元気よく過ごしている」「朝ご飯を毎日食べている」「安全に生活できている」のいずれも高い評価となりました。多くの子どもたちが、家庭や学校での支えの中で、健康的で安心した生活を送ることができていることを大変うれしく感じています。特に、朝食をしっかりとっている児童が多く見られ、保護者の皆様の日々のご協力が子どもたちの元気な学校生活につながっていることがうかがえます。

また、安全に関する項目でも高い評価が得られました。子どもたち自身が安全を意識して行動しようとするとともに、ご家庭や地域の皆様が日頃から見守ってくださっていることの成果であると感じています。毎日の登下校や学校生活の中で、多くの方々に支えられながら子どもたちが生活していることに感謝しています。しかし、すべての児童が安全に生活しているかといえばそうではありません。「登下校中の様子で危ないと感じるところがある」と地域の方や保護者から教えていただくこともあります。そうした声は、子どもたちの安全を守るための大切な気付きであり、学校としても真摯に受け止めています。日々の指導を積み重ねていても、安全な行動が確実に身に付くまでには継続した取組が必要です。

一方で、健康的な生活習慣や安全への意識は、一度身に付けば終わりというものではありません。睡眠や朝食などの基本的な生活習慣を大切にするとともに、交通安全や防災への意識を継続して高めていくことが必要です。子どもたちが自分の健康や命を大切にし、自ら考えて安全に行動できる力を育てていきたいと考えています。

この特集号の発行に先立ち、学校運営協議会理事会を開催しました。理事の方からは、「AIが浸透してきている中、知識をただ身に付けるのではなく、学び方を自ら見つけたり、問いを自分で見つけたりという、自分を作っていくことを重視している社会。そのような学びをこれからも続けていってほしい。」という意見をいただきました。また、「学校に行きたくないという声もある。クラスの中で、子どもたち同士のつながりを作ったり、深めたりする活動も増やしてほしい。」という意見もいただきました。直接的な関わりができる小学校の強みを生かし、学校が安心・安全な場になるようにこれからも取組を続けていきたいと思います。